

みんなで一緒に考えよう、 公共施設のミライ

～コミュニティ施設と児童館を中心に～

令和6年 7月20日(土)	ヴィータ大会議室	14:00～16:00
7月27日(土)	ベルブ永山講座室	13:00～15:00

開会のご挨拶

◇開催の目的

- 公共施設は、市民の皆さんの財産です。公共施設のミライについて皆さんとともに考え、意見交換をしたいとの思いから、今回の意見交換会を開催させていただきました。
- 公共施設のミライを考えるにあたって、その前提となる社会情勢など、多摩市を取り巻く状況や問題意識の共有と、現時点の公共施設についての市の検討状況をお示しします。

目次

1. 多摩市を取り巻く状況
2. 第六次多摩市総合計画について
3. 多摩市の状況と公共施設マネジメント
4. 公共施設のミライ

多摩市を取り巻く状況

◇自然環境

- 気候変動
- 自然災害の激甚化

◇社会情勢

- 人口減少と少子高齢化
- 技術革新など

多摩市を取り巻く状況

◇自然環境

• 気候変動



多摩市気候非常事態宣言

気候変動は、私たち人類とすべての生き物にとって避けることのできない緊急事態です。

世界では、2015年にパリで開かれた国連気候変動枠組条約締結国会議の約束事として、産業革命前と比べて平均気温の上昇を2℃以内に抑えること、さらに1.5℃に抑える努力をすることが掲げられています。しかし、世界の平均気温は、産業革命前と比べてすでに1.1℃上昇しています。

世界では、もはや「気候変動」ではなく、すべての生物にとって生存が危うい「気候危機」と表現されるようになり、これを防ぐためには、この10年の取組が重要とされています。国内でも大型台風等による災害が繰り返され、昨年は多摩市でも台風19号によって、市民のみならず避難を余儀なくされ、いままでどこか別の世界の出来事と思っていたことが、私たちの身のまわりでも起きはじめました。これからはますます災害が拡大して起きるおそれがあると言われています。

これは温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化による影響で、すでに疑う余地のない状態です。

この問題を解決していくためには、温室効果ガスの最も大きな割合を占める二酸化炭素を排出しない社会にしていく必要があります。そのために、電気やガスなどのエネルギー使用の節約や、再生可能エネルギーへの転換を進めるとともに、使い捨てプラスチックの使用を削減し、資源の有効活用を図ることで、持続可能で地球に優しいライフスタイルを取り入れた社会に向かうよう取り組めます。

また、気候変動は生態系も脅かします。生態系を育む生物多様性が豊かであれば、気候変動による影響を緩和し、もとの自然環境に戻してくれる調節機能を持ちます。二酸化炭素を排出しない社会にしていくと同時に、生物多様性も保全していく必要があります。

この思いを実現していくためには、私たち一人ひとりがこの気候の危機を「自分のこと」として考え、全員で共有して、二酸化炭素の削減に取り組む必要があります。私たち一人ひとりの取組は小さくても、市民全員のが合わされば大きな成果を生み出します。

多摩市及び多摩市議会は、地球温暖化の対策に全力で取り組みます。そして、国連で採択されたSDGsによる持続可能な社会の実現のため、ここに気候非常事態であることを宣言します。

1. 「気候危機」が迫っている事実を市民全員と共有し、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指します。
2. 資源の有効活用を図り、使い捨てプラスチックの削減を推進します。
3. 生物多様性の大切さを共有し、その基盤となる水とみどりの保全を積極的に推進します。

令和2年6月25日

多摩市長 阿部 裕行

多摩市議会議長 藤原 2カ19



多摩市を取り巻く状況

令和元年度台風第19号
(市内施設の被害の一部)

◇自然環境

• 自然災害の激甚化

一ノ宮公園 庭球場

被災後

被災前



第六次多摩市総合計画について

◇社会情勢を踏まえて、多摩市第六次総合計画を策定

- 変化の激しい時代にあっても、明るい未来を志向し、持続可能なまちを実現するために策定しました。
- 6つの「分野別の目指すまちの姿」掲げています。

1 子どもの成長をみんなで支え、
ともに生きるまち

2 支え合いのなかで、
いつまでも安心して暮らせるまち

3 地域で学び合い、
活動し、交流しているまち

4 みんながいきいきと働き、集い、
活気と魅力があふれるまち

5 みんなが安心して
快適に住み続けられるまち

6 地球にやさしく、水とみどりと
くらしが調和したまち

第六次多摩市総合計画について

◇行財政運営の基本姿勢

- 明るい未来を志向し、持続可能なまちを実現するためには限られた社会資源を効率的・効果的に活用し、持続可能な行財政運営を行う必要があります。

次のことを行財政運営の基本姿勢としています。

1 時代に即した行政サービスの最適化

2 職員の人財育成と柔軟な組織運営

3 公共施設等のマネジメント

4 多様な主体との連携

多摩市の状況と公共施設マネジメント

◇公共施設マネジメント

- 公共施設等のマネジメントでは、都市基盤等を含む公共施設等について、以下の項目を踏まえて、施設の機能や管理・運営手法の見直しなどにより、維持管理コストの縮減を図っていくこととしています。

- 減少傾向にある将来人口
- 中長期的な財政見通し
- 市民ニーズの変化

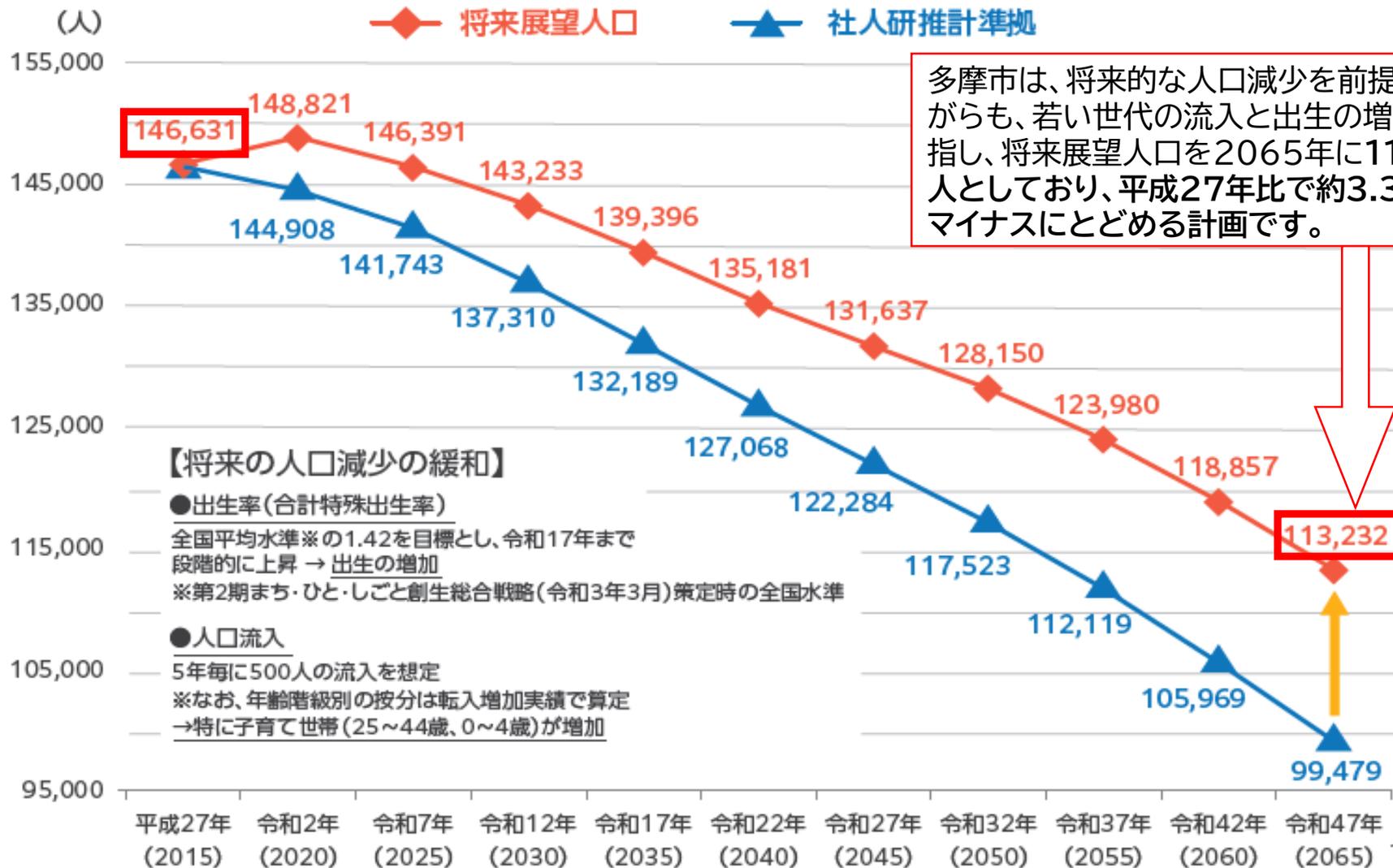
多摩市の状況と公共施設マネジメント

◇公共施設マネジメント

- 多摩市の公共施設の機能や管理・運営手法の見直しは、以下の計画を基に進めています
 - 多摩市公共施設等総合管理計画
 - 多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム
- これらの計画に基づき、公共施設について検討を進めています
 - 大規模な公共施設：老朽化が進んでいる市役所本庁舎、多摩第三小学校、学校給食センター等
 - 地域の複合施設：豊ヶ丘・東寺方などの地域複合施設などについて

多摩市の状況と公共施設マネジメント

◇多摩市の状況_将来展望人口



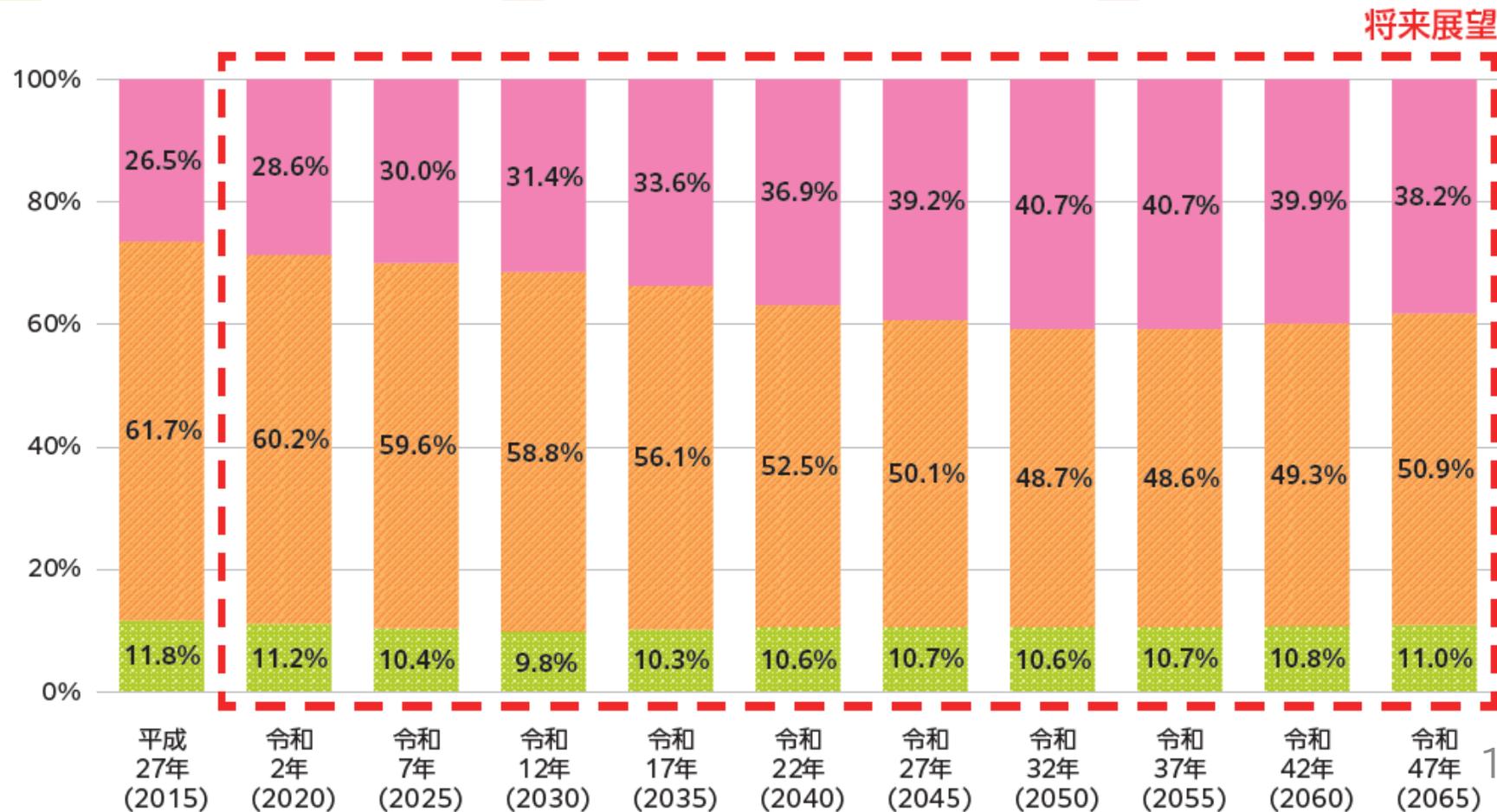
多摩市は、将来的な人口減少を前提としながらも、若い世代の流入と出生の増加を目指し、将来展望人口を2065年に113,232人としており、平成27年比で約3.3万人のマイナスにとどめる計画です。

多摩市の状況と公共施設マネジメント

◇多摩市の状況_将来展望人口の年齢3区分人口割合

老年人口比率(65歳以上)は令和32(2050)年をピークに令和47(2065)年には38.2%になることが見込まれます。

■ 年少人口(0~14歳) ■ 生産年齢人口(15~64歳) ■ 老年人口(65歳以上)



多摩市の状況と公共施設マネジメント

◇多摩市の状況_中長期的な財政の見通し

• 財政運営上の課題として、大きく2つあります

• 社会保障関係経費の大幅な増加に伴う財源不足

高齢化の進行等に伴い、社会保障関係経費が年々増加しています。

一般財源ベースで年平均約3億円程度の増加見込みとなっており、経常収支比率を押し上げ、財政運営を硬直化させる要因の1つとなっています。

• 老朽化する公共施設等の更新と維持管理コスト

令和10(2028)年前後には、市役所本庁舎、多摩第三小学校、学校給食センター等の公共施設が更新時期を迎えます。

物価高騰など今後の情勢変化を踏まえると、約350億円以上の費用がかかることが想定されます。

公共施設のミライ

◇多摩市の問題意識とこれからの公共施設マネジメントの方向性

- 多摩市の問題意識

複雑で予測困難な時代にあっても、将来にわたって持続可能なまちを実現するためには、公共施設を安心して使い続けられるようにするだけでなく、

時代の変化に柔軟に対応できる公共施設にしていきたい

と考えています。

公共施設のミライ

◇多摩市の問題意識とこれからの公共施設マネジメントの方向性

• これからの公共施設マネジメントの方向性

時代の変化に柔軟に対応するためには、

- ① これまでの特定の人や特定の目的でしか使えない公共施設ではなく
- ② 多用途・多目的に使える公共施設に転換し
- ③ 公共施設という「場」をみんなでシェアしていくという方向性
で未来の公共施設を考えていくことが重要です。

公共施設のミライ

◇多摩市の問題意識とこれからの公共施設マネジメントの方向性

- 新たな計画の策定

多摩市ではこれからの時代の変化に柔軟に対応できる公共施設にしていくことを目指して、令和7年度末までに「(仮称)アセットマネジメント計画」を策定する予定です。

- 計画の策定と並行で進めていくこと

新たな計画の策定作業と並行して、今まで進めてきた公共施設に関する取り組みは足踏みすることなく引き続き継続していきます。

その取り組みの内、コミュニティ施設と児童館の今後について、市の考え方がまとまりましたので、皆さまにお伝えいたします。

公共施設のミライ

◇コミュニティ施設のミライ

• コミュニティ施設のミライ

少子高齢化が進み、担い手が少なくなるなかでも、子どもからシニア世代まで、子育て中や働きながらでも、また、従来は支えられる立場にあった人たちも含めて、**多世代共生型のコミュニティをつくりたい**と考え、今後のあり方を検討してきました。

多世代共生型のコミュニティをつくるために、**公共施設という「場」をみんなでシェアしていくという方向性**を踏まえ、「**コミュニティ施設の今後のあり方に関する基本方針(素案)**」を作成しました。

公共施設のミライ

◇児童館のミライ

• 児童館のミライ

児童館は、地域の子どもが誰でも自由に集える場所として親しまれてきました。小学生だけでなく、乳幼児と保護者に、さらに中高生の居場所としても運営を広げてきました。

しかし、**小学生の居場所を保護者が安心できる学校内に求める声**が高まり、**学童クラブの校内化**に加えて、**学校での放課後こども教室**を拡充しています。

そのため、**学校の外にある児童館は、少子化が進む社会においても引き続き児童の健全育成に取り組むとともに、アウトドア特化館や中高生専門館など、特色ある児童館整備・運営を通じて子どもと保護者から選ばれる児童館であり続けたい**と考え、「**児童館の今後のあり方基本方針(素案)**」を作成しました。

公共施設のミライ

◇ご意見ください！

これから、

「コミュニティ施設の今後のあり方に関する基本方針(素案)」

「児童館の今後のあり方基本方針(素案)」

の2つを皆様にご説明いたします。

説明の後、ぜひ皆さまのご意見をお聞かせください。